

プリンシパル



JEWEL

篠 穂穂

九条 AOI

JEWEL

WELCOME TO OUR NEW CHAPTER OF FANTASY

ATTRACTIVE *fantasy*

Art: Kujou *Jewel*

Scanner: yu_rhade
Translator: Arisa
Cleaner: TumpK
Editor: Sinsdead
QC: Chaska / Kashimiro
Gopher: cygnus

JEWEL

プリンシパル



目次

P 0 AGE
KILKOR AGE



Students Council Office

KNOCK
KNOCK

IF I THINK
ABOUT IT
NOW...

AT THAT
TIME I
WAS...

Yes, please
come in.

Excuse
me.

WELCOME,
HOMOSE-
XUAL.

THAT'S
RARE.

PRE-EXISTENT
CHARA.
YOU'RE
ALONE.

Haha



MIX

SOMEHOW
I THINK
I WAS
INVITED...

KIKURU ACE





DO YOU
LIKE
THIS?

KAKINOTANE
MADE IN JAPAN

SH?

WELL
...

More
you too

I LIKE
THESE
TOO.

THEN, YOU
SHOULD
HAVE JUST
BOUGHT
ONLY
PEANUTS
FROM THE
BEGINNING.

I THINK
THAT'S WHAT
WE CALL
EFFICIENCY.

I LIKE
PEANUTS.

IT'S LIKE
DECLAR-
ING THAT
I LOVE
SAGE.

PRESIDENT,
AREN'T YOU
EATING ONLY
PEANUTS SO
FAST?

Only
Fast
An old
man



IT'S THE
TASTE OF
THE
KAKINGO-
TANG.

IT'S NOT THE
PROBLEM OF
EFFICIENCY.

I
LIKE
IT



KISS



SUCK

LICK





I DON'T
KNOW...
SO...

CAN'T BE
HELPED

I'LL JUST
TRY TO GO
ALONG
WITH IT.

⑨ コメントと インフォメ

この欄は読者のみなさまへ

「コメント」「インフォメ」「お知らせ」
「お問い合わせ」
「お問い合わせ」

この欄は読者のみなさまへお書きのコーナーです。このコーナーは、
2005年最後、このコーナーを閉じることにしました。今後、
2006年からはこのコーナーを閉じます。

初夢

おあー
おあー

2006年



おあー

2006年1月 第1号

（読者の声）

大光41号「初夢」

「初夢」のコーナーは、
4-12月号の巻に「おあー」

2006年は、大光41号の巻で「初夢」

おあー「おあー」

Special Thanks

この度はお買い求めくださいまして、ありがとうございました。

ごんにもは、御礼です。

稿子を読んでから随分長く小説を発表していませんが、残念なことに今回の本にも参加することができませんでした。トークだけ聞かせてしまい恐縮ですが、皆様には大泉A.O. 個人誌として本長くお手元に置いて可愛がっていただけるとありがたいです。

ちなみに誌名の「プリンシパル」は、『もっとも重要な人』という意味でつけました。P/E用語では女性の主役をプリマドンナ(=プリマ・パレリーナの略)と言うのに対し、男性の第一舞踏手をプリンシパルと言うそうです。男性が王学校を多く演じることに由来しているのだから、王子様という言葉にめっぴう近い私にとっては、なにやらありがたいくもたえない誌名になった模様です。

王子様といえば、『星の王子さま』(サン＝テグジュペリ)という有名な童話がありますよね。実は私の本棚には、この美しい童話が何冊も重んでいます。ざっと見たところソフトカバーの小さいサイズの本が八冊とハードカバーが四冊もあります。表の引き出しを開けて奥のほうを探してみれば、もう一冊くらい見つかるかもしれません。というのも、私はこの本を書店で見つかるたびにドキドキして、同じ本を何冊も持っているにもかかわらず、どうにもこうにも買いたくてたまらなくなってしまうのです。

『この書店には、確か、右側の壁面のコーナー付近にあの王子がいたはずだから読まないように左回りをしなちゃね。いつもいつも王子の甘い眼差しに負けていたら、いつかうちの本棚が『星の王子さま』だけでいっぱいになってしまうもの』などと、動物のシェリレーションまでして用心しているのに、ああっ、遠くからでも判別できるようになってしまった自分の能力が怖い！ あの麗しそうな目をした王子を確認してしまえば、もう童話とは無関係に足が動いていき、おもむろに本を手にとったが最後『うーん、本棚が王子だけでも固くないんじゃないかなあ、むしろいいような……って言うか、素晴らしいのだ！』と、あっと言う間に新しい本をレジに持くはめになるわけです。

あ、お話はもちろん好きで、随分返し読んでいますが、それ以上に「王子」と

いう言葉の響き、字面、その存在の熟慮さ、――もう何もかもにまいていて、どうにも視えない私なのでした。

だからと言って、この『プリンシパル』を何冊も買ってくださいという意味ではなく、私の程々に『王子ラプ』な人はいないかなあと、同道者集中です。

さてと、中盤の対話を少しだけ。現在、書きかけの作品は五庫あります。まず一本書。この本に關する予定だったのは、兄弟もので年の差ものでした。一回り以上上の離れた兄が、主人公の男を愛慕する対照です。

二本書は、後宮センチティブコメディーです。王子様もの。何處の人は本物の王子様だったという高校生が、初恋を成就させるお話。年の差と身分違いのテキストもちょっぴりありつつ、メインは後宮でのお配役劇です。たつ上の執事の王子様が美しいです。

三本書は、お嬢士の出来とそのお嬢。早稲ちゃんの対照。以前、予金をした本がまだ出てなくてすみません。もう少しなのか、遅いのか。

内容のほうは、たとえ早稲がどんな目にあっても、新緑のロマンティックな青春愛は奪われてないはずだと思うのです。

四本書は、決して思っているわけではない、ロミジュリアの『運命のひと』。

最終の五本書は、突然、男爵の貴族らしさを奪われた元たくなくて書きだした『男爵もの』です。単に運命の元と後宮の元のお話なのですが、なんというかこれはあまりにもむき出しのラプビ一部が舞台なので、最終でもまあままでの正解かもしれません。

なんだが平者にもならない内容紹介の羅列になってしまいましたけれど、こうして並べてみると、私にとって大切な作品ほど長く手元に置いてしまっている例がします。せめてこれだけはひと、密いような密く美しいような気持ちで向き合っている作品が無事に出版上がった際には、真っ先にご報告をさせていただきます。それでは、次の作品でお会いできる日まで、皆様、どうぞお気をつけてください。

「プリンシパル」

発行日：2005. 12. 30

所 在：J-EWDL

出 版：サンライズプロダクション

連絡先：〒264-0024

千葉県君津市高島町461-1-204

原 稿 所

※ 監・原稿編集

※ 流丁、終了後は読者へ差し込みいたします。

